

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	キッズランドまめの木 ばらき校(放デイ)		
○保護者評価実施期間	令和7年 11月 20日		～ 令和7年年 12月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 12人	(回答者数)	11人
○従業者評価実施期間	令和7年 11月 20日		～ 令和7年年 12月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 8	(回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 21日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもたちが安心できる場所、楽しく通える場所となっている。	子どもたちが興味を持てるようなプログラム作りを行っている。また学校休業日などは子どもたちがしたいことの意見を取り入れた内容にしている。 日々の子どもたちの様子をノートに記したりミーティングを行って共有し、それぞれの状態を把握して適切に対応できるよう心掛けている。	楽しめるプログラム作りやミーティングなどでの情報共有は継続して行っていく。 子どもたちの様子をより理解していけるよう、観察や会話を欠かさず、本人との関りを大事にしていく。
2	楽しみながら学べ、固定化しないようなプログラム作りが行えている。	事業所の『楽しく通える』という方針を主として、遊びやゲーム感覚で取り組める、また5領域を意識したプログラム作りを行っている。	子どもたちの能力や発達段階で課題の難易度や構成を変化させているが、より一人ひとりに合わせ個別的に課題設定を行いたい。
3	異年齢の交流、外出・体験イベントなどを通じてコミュニケーションや社会性を学べるように支援している。	児童発達支援の子どもたちと一緒に過ごすため、集団活動の際は、児発の子とペアを組ませることがある。小さな子の面倒をみたりすることで相手を思いやることや接し方を学んだり、小さな子の模範となれるような心構えの醸成ができる。 学校休業日にはお出かけや季節のイベントなどを取り入れ子どもたちが様々な体験を通して社会性を育めるように支援している。	異年齢同士の関りができる環境は継続させていく。社会性やコミュニケーションスキルの向上につながるような課題・プログラム作りに役立てていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	プログラムの内容が利用者によっては少し幼く感じられることがある	楽しみながら学ぶを軸にしており、あそびやゲームなどを通し発達を促す内容にしている。低学年・低年齢の利用者の割り合い多く、年齢や発達段階の若い子どもたちでもできる内容に偏ってしまいがちになる。	同じプログラムでも難易度や手法を少し変えるなどして、全員一律のものでなく年齢や個々の発達度合いに合わせたものを提供するよう心掛ける。
2	日々のミーティングでの情報共有は出来ているが、個別支援計画と連動して支援が行えていないこともある。	個別支援計画の共有が十分でない。	個別支援計画の共有を進めていく。日々のミーティングで子どもたちの様子を共有しているが、そこから一歩進めて計画作りやモニタリングの際も広く職員に参加してもらう。職員みんなで計画たてて実践していくことの意識を持つ。
3	子どもの活動スペースは基準を満たしているが、人数が多くなると圧迫感を感じる。	利用人数の増加。 日中一時預かりをおこなっている児発児童と一緒にすることで、室内の人数がより増えている。	屋外活動で体を動かし子どもたちがエネルギー発散できるようにする。また、グループ分けをして別行動させるなど、室内に人が多い状態を作らないように工夫する。